

環境と情報に関連する自分史(1945年～)			
	名前	佐藤信輝さん	他のゼミ生の感想や関連するやりとり
	生まれ	昭和 16年 1月	
	成人するまでの主な居住地	四平街二里(4歳6か月) 修善寺町3年間 函南町72年	
	終戦後の状況		
1	終戦時の年齢は？ 終戦はどのように迎えましたか？	昭和21年7月に満州大連港から出港し佐世保に上陸。静岡の郷里へ引き上げた。佐藤少年4歳の出来事。「内地の祖母の家に帰ろう」と言われたがどこへ行くのかはわかっていなかった。	
2	戦後、“衣”、“食”、“住”はどんな手段で都合できたのでしょうか？	<p>戦中、戦後を旧満州国で迎え混乱の中帰国 満州国での暮らしや帰国時の様子を克明に話してもらった</p> <p>【満州からの引き上げ】今から4年前に生地と最後に引き上げてきた所がどんなところなのか見るために戦後初めて中国東北部(旧満州国、新京市、現長春市)を訪れた。都市再開発のため生家がたまたま壊される所だった。生家から車で50分程の「四平街」(北朝鮮に国境を接する吉林省四平市)を訪問。終戦時に引き上げてき所である。</p> <p>8月15日以降平和だと思っている人が多かもしれないが、実際には、(旧満州国では)8月9日に父親が勤務していた第11野戦航空修理廠に極東ソ連軍が飛来し、占領された(ソビエトが日ソ中立条約を破棄して参戦したのは8月8日)。辛うじて危機を脱出して家族で帰還できた。引き上げの時、妹は生後3か月であったが、戸籍では昭和21年7月生まれになっている。戦後の無政府状態のため実際より3か月遅れの誕生日で入籍された(この頃の無政府状態がトラウマとなって中学生頃まで自分の中に残っていた)。</p> <p>【生活・残留孤児】中国人の物売りがきて野菜のようなものを買って食べるが、引越しの荷物は略奪された。中国人の古老(九州帝国大卒業)が、四平街は4000年の歴史の中で戦いが無い平和な街なのでここにどまっていれば平和だろうと言っていた。住んでいた家に(子供のいない)中国人夫婦が(日本人の子供を)買いに来た(佐藤さん自身も)中国の農家に売られそうになる。日本人の子供は頭がいい、食べるものは十分あるぞ(と中国人がジェスチャーで訴える)。金額はわからなかった。佐藤さんの家はある程度の食料の確保があったため母親がかれらを追い返したが、開拓団の人は自分の子供に食べ物をあげることができなかった人もおり、子供の命を助けるために「中国人に預ける」として自分を納得させ子を中国において日本に帰ったひとたちもいた。日中国交正常化後 中国残留日本人孤児がTVで報道されると(当時の様子を想い)涙がとまらなかった。</p>	<p>(加藤)8/6広島、8/9長崎の原爆投下ことは知っていましたか。 (佐藤)原爆投下のことはわからなかった(知らなかった)。 (加藤)引き上げ時で強く印象に残っていることは？ (佐藤)移動中の記憶では、弟が(アメーバ赤痢で)痩せていき眼だけがぎよぎよしておなかが膨れていた。船の中でばたばた子供がなくなる。船の中で葬式をあげる。お経お線香をあげ遺体は毛布に包み海になげた。船は汽笛をならして遺体を投げ入れた付近を三周回りにぎと全速力で発進した。およそ一週間後に佐世保の港が見えた。すぐには上陸できない。検疫があり、1～2日船の中にいた(これはまさに現在のコロナ禍と同じ光景ですね)。上陸後、汽車で広島を通過、更に浜松、静岡を通過して沼津駅には駅舎はなく、周囲に家なども無く(1945年7月17日の沼津大空襲のため)海まで見通すことができた。 修善寺に住んでいる親戚が翌朝おむすびを持ってきた。何か月かぶりに白いご飯を食べ、佐藤少年が大変喜んでいて大人は泣いていた。多分20日くらいかけて帰国、三島にたどりついた。道中生後3か月の妹も一緒無事だった。</p> <p>(加藤)日本にいた人たちと終戦の受け止め方の違いは？ (佐藤)あまり関心を示されたことはない。満州から引き揚げてきた子ということで周囲の大人からは可愛がってもらえた。</p> <p>【戦後間もない頃の食生活は？】 (佐藤)両親の実家が農家だったし、海も近いので食べ物には困らなかった。 (佐藤)食券は使っていた。父親が傷病兵だったので食券で米は買えた。 (河口)穀類だけの配給でそれだけでは足りなかった。芋、芋のつるなどを食べた。</p>
	生活と環境		
1	自宅での生活用水は戦後どのように変わりましたか？	満州では手押しポンプ。日本に帰るとツルベ井戸～裕福な家はポンプ井戸だった。昭和30年頃から町営水道。	

2	ご自宅のトイレはどのように変わっていききましたか？	満州では汲み取り式便所。月に1回満州人との契約。日本では下肥と言って肥料にした。昭和30年頃に水洗式便所になった。	
3	ご自宅の物干し竿はずっと竹ですか？	竹。1960年頃からは鉄パイプ～プラスチックパイプ。	
4	ゴミ箱やゴミにまつわる記憶はありませんか？	1960年ごろまで家の外でドラム缶、又はコンクリートブロックの焼却炉。	
5	ゴミの分別について、意識したのはいつ頃？どのようなきっかけで？	1960年頃までは家で燃やしていた。ゴミの分別については町営のゴミ収集車が来た。年代は記憶にない。	
6	戦後から高度経済成長期へ。印象に残っている出来事は？	<p>社会人となり高度経済成長期を銀行員として過ごす。地元の銀行勤めの話からは教科書や報道では伺い知ることがあまりない当時の地域経済発展の一端を伺い知ることができる。</p> <p>【狩野川台風】(佐藤さん:17才)大学に進学を希望していたが就職も検討し受験勉強。58年9月狩野川台風で援助してくれるはずの親類の畑が流され進路変更。周りの同級生も進路変更を考える。(狩野川氾濫時)流れてきた人を助けた。たまたま体育の時間に教わっていた人口呼吸を実践し知事から表彰された。</p> <p>【狩野川台風後の復興景気】(狩野川に巨大な放水路が完成したのは1965年)1959年に銀行へ入行。その後狩野川台風後の復興景気が訪れ、修善寺～下田が新婚旅行のメッカとなり、修善寺駅は新婚旅行組でいっぱい。観光業が発展した。</p> <p>【ベトナム戦争と静岡】(1975年に20年続いたベトナム戦争が終結する頃、熱海支店に転勤)1976年頃ベトナム特需があった。ベトナムに派遣されたアメリカ兵が休暇で横須賀へさらに熱海へ旅行でやってくる。</p>	
7	「公害」を意識したのはいつ頃、何がきっかけでしたか？	四日市喘息(高度経済成長期の1960年から1972年にかけて三重県四日市コンビナートから発生した大気汚染による集団喘息障害)が問題となっていた。この頃、東駿河湾地区が国の工業整備特別地域(タンカー集積地と大型の工業団地計画で公害が予想された)に指定された(1963年)。この計画に対して、沼津と三島で反対運動がおこる。このような活動を受けて国は公共政策を方針転換し、(環境政策の強化)コンビナート計画は修正された。	
8	<使い捨て>を意識したものは何でいつごろのことですか？ その時考えた、感じた、という何か記憶はありますか？	近在にスーパーマーケットが出来た時。ビニール袋が家に溜り始めた頃。1987年頃から意識しだした。	
9	風呂はどのように変わっていききましたか？	1970年までは五右衛門風呂を使用、薪で湯を沸かす。それ以降は石油ボイラーで沸かす風呂を使用していた。	
生活の中の情報			
1	初めての電話との関わりはいつ、記憶に強くあることは？	1946年の7月に満州から引き揚げた際、家族がやっと三島に到着したことを母の実家に電話で伝えた。近所の店に「大仁100番」の電話があり、家族を呼び出してもらった。その番号が印象に残っている。	
2	初めてのケータイはいつ、どのようなきっかけで？	はじめは呼び出し連絡機能のみ(ポケベル)であった。(1960年頃)	
3	鉄道(乗り物)で印象深い記憶は？	無蓋車、石炭輸送車。雨の中、これに乗り満州から引き揚げた。	

4	コンピューターに接した、あるいはそれを意識したのはいつ、どのようなことですか？	東芝の作表加算器、レジスターの操作。IBM1050,1040。(1965年頃) 銀行の業務で紙ベースの仕事から電子化になったものとして印象にある事として、その頃、給料の支払いが現物から振り込みになった。情報管理も電子化がこの頃から進んだ。(1980年代初期)	
5	どのような家電を導入したとき、家の中の様子が最も大きく変化しましたか？	洗濯機の導入によって妻の仕事内容が変わった(昭和30年代)。	
6	社会の変化についてのコメントは？ 戦後の日本社会を総括するとどんな感じ？	戦後の日本は平和であった。外圧というか、子供の頃満州で感じたソ連軍、朝鮮軍や異民族から追われている感覚とは無縁で、秩序立てた社会にいるという安心感があった。、戦後の日本は抑圧されることがない安心な社会だと感じる。	
その他			
1	戦後<日本>を意識されたことがあれば、どのような時ですか？	ソ連軍の進駐と国共合戦。(八路軍と国民政府軍(蒋介石派)との内乱。)朝鮮人に囲まれた日本人社会は無政府状態であった。 日本人集落に八路軍の兵士が分散して泊まったことがある。八路軍の進軍時には夜砲声が聞こえた。日本軍の物資や兵員がシベリアへ大量に送られた。日本の兵隊さんが一人も居なくなった。	
2	小学生の頃何をして遊んでいましたか？	学校への行き帰り、カニ、ヘビ、ミミズを獲り、魚も獲った。 その後、野球、ソフトボール。	